

志木市議会議員 無所属

天田いづみの議会だより

市議会・まちづくり情報



〒353-0006 志木市館1-1-2-108

Tel/Fax:048-471-1338

E-mail: amada@ff.e-mansion.com

天田いづみのホームページ <http://www.ff.e-mansion.com/~amada/>

第54号 2016年9月

子どもも高齢者も共生できるまちづくり

◆ 館保育園は住民の願いにこたえて

1月28日に市が主催した意見交換会での「公立保育園としてのこしてほしい」との地域住民の願いを受け、早急に方向性をと3月議会で質しました。

村上健康福祉部長からは「地域の皆様や保育園の保護者などとの意見交換では、恵まれた保育園環境を生かし、子育て世帯を呼び込むことで少しでも高齢化に歯止めがかけられ、今後のまちづくりにも役立つのではないかといったご意見をいただいている。

市内の公立保育園のあり方については、将来的な待機児童数の推移を踏まえながら、保育のあり方と公共施設マネジメントの両面から総合的に判断していくべきものと認識している。」との答弁がありました。

民間の低い賃金体系を考えると、公立の役割として、障がい児保育も含め、望ましい保育を牽引していくことも提言しました。

村上部長「今後も地域の声に耳を傾けながら方向性を定め、その方向性についてもしっかりと市民の皆さまに説明していきたい。」とのことでした。

◆ 保育園、学童保育は定員増に向けて

保育園については8年間で490人から1,263人に定員を増やし、秋には1,296人となる予定です。

待機児童は昨年37人、本年4月には22人と減少したものの、保育園には入れれば働きたいという58人を加え、80人が入っていない実態です。

学童保育についても、昨年度から6年生まで定員拡大したことに加え、全体的に希望者が増えており、今年は4月と6月の補正予算で82人定員を増やしたものの、未だ38人が入っていないということです。

6月議会では、子ども子育て支援事業計画(2015～19)を見直し、実態に即した保育行政を進めることを提言しました。

村上健康福祉部長からは、「今後は実態に即した計画となるよう速やかに見直しを図っていく。」との答弁がありました。館保育園の廃止が検討された5年前に比べ、民間の認可保育園や小規模保育施設等が大きく増えている中、防災や障がい児保育等の機能を持つ公立保育園についてもバランスのとれた配置を求めました。



園庭のある館保育園(2016.7.26)

◆ 高齢者あんしん相談センターは館地区にも

身近な地域の中で地域包括ケアシステム(医療・介護・予防・生活支援・住まいの一体的なしくみづくり)に向けて、日常生活圏域は館と幸町を分け、高齢者あんしん相談センターを館地区にも設置していくことを6月議会で提言しました。

志木市の高齢化率は23%程度ですが、館地区は38%です。現時点では前期高齢者(65~74歳)が24%、後期高齢者(75歳以上)が13%ですが、志木市全体でも2020年度には後期高齢者の方が多くなります。

団塊の世代の方々が元気なうちに、支え合い、生きがいを持てる地域のしくみづくりをしていく時です。

館地区であれば、高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)がペアモー商店街の中などにあれば、スペースわ(街なかふれあいサロン)のように気軽に立ち寄り、顔の見える関わりができ、訪問もしていただけます。

村上健康福祉部長からは「館・幸町圏域の高齢者数は5,000人に達しており、市内5つの圏域で最大となっている。2017年度に策定する高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画の中で議論していきたい。」との答弁がありました。

医療についても、訪問診療等で在宅での療養を支えることのできる医療機関が身近な地域にあることが安心につながります。

村上部長からは「在宅医療サービスについては市内の隅々にいきわたるようなしていかなければならないと考えている。朝霞地区医師会では在宅医療を推進していくために、4市共通の情報管理システムとしてメディカルケアステーションを導入されると伺っている。」との答弁がありました。

2016年6月議会 一般質問より

■ 防災について

2018年度から福祉センターが総合福祉センターの建物の中に移転します。

福祉センターと第二福祉センターは災害時の福祉避難所として志木市地域防災計画に位置付けられています。

また、避難所については小学校8校、補助避難所については中学校4校と総合福祉センター、市民会館、市民体育館、宗岡公民館、秋ヶ瀬スポーツセンター、西原ふれあいセンター、ふれあいプラザが指定されています。

一方、市内の公共施設の総量を見直す公共施設等マネジメント戦略に基づく再配置計画が今年度中に策定されます。

福祉センターだけではなく、市内の公共施設のあり方を防災の観点から、様々な災害を想定し、総合的に考えていくことが重要です。

尾崎総務部長からは「災害発生時には市社会福祉協議会がボランティアセンターを設置することとなり、大変な混雑が予測されるボランティアセンターと福祉避難所を同一施設(総合福祉センター)とするのは難しいと予想される。

今後、2017年度末に向けて地域防災計画を見直す中で、要配慮者の視点による避難所指定の再編を協議していく。

提案いただいた公共施設等マネジメントを勘案した総合的な視点による防災機能の整備については、市民に安心を与える重要な視点であると考えているので、防災を注視した体制整備に努めていきたい。」との答弁がありました。

各公共施設での資機材等の備蓄のあり方、縦割りを越えて市民への情報提供等の役割をしっかりと果たしていくこと、過去の水害等で職員が培ってきた知識・経験を生かし、総力を結集して市庁舎建設をはじめ公共施設の再配置計画、地域防災計画の見直しに臨んでいただくことを提言しました。

■ 期日前投票(柳瀬川図書館)の時間延長を

昨年の県知事選挙から、柳瀬川図書館で期日前投票ができるようになり、市議会議員選挙では市全体の投票率は1%程度上昇しました。

ただ、他の期日前投票所が午後8時までなのに、柳瀬川図書館は午後6時まででしたので、通

勤通学の、特に若い世代に投票していただけるよう、午後8時までにはできないか選挙管理委員会委員長に伺いました。

広島選挙管理委員会委員長からは「本年7月10日執行の参議院議員選挙から、通勤・通学者等の利便性の向上のため、図書館の閉館時間に合わせ平日は午後7時まで延長する。更なる延長については人材確保の問題などが懸念されるので慎重に判断していきたい。」との答弁がありました。

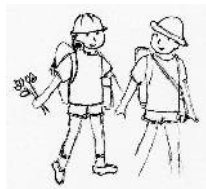
■ 志木っ子教育大綱について

志木市教育大綱(2016. 3)については「次代を担うたくましい志木っ子と地域を支える市民を育む教育」を基本理念とし、香川市長と5人の教育委員会委員が真剣に議論を重ね策定されたということです。

さらに、県内唯一、子どもたちに向けて志木っ子教育大綱を策定されたということで、香川市長にその思いを伺いました。

香川市長から「志木市らしさを打ち出すべく、次代を担うすべての子どもたちに向けて、●元気にあいさつをしよう！ ●思いやりを持とう！ ●いじめはやめよう！ ●朝ごはんをしっかり食べよう！ ●いろいろなことに進んで取り組もう！ とのメッセージ5つを柱に、未来に向かって夢を持ち、社会の厳しい変化の中でも未来を切り開いて育てほしいとの願いを込めた志木っ子教育大綱もあわせて策定した。

次代を担う子どもたちは、志木市の未来を支える大切な宝であり、発達段階の子どもたちの心にじかに触れる教育は、子どもたちの未来をつくる、いわば失敗の許されない崇高かつ重要な営みである。この教育大綱策定を機に気持ちも新たに、教育の使命を学校や家庭、地域とも分かち合い、様々な課題を共有しながら互いに支え合い、一体となって子どもたちを育むことのできる教育環境を推進していきたい。」との答弁をいただきました。



■ コミュニティ・スクール

(学校運営協議会制度)について

教育長からコミュニティ・スクールについて検討していきたいとの発言があり、その主旨について伺いました。

学校運営協議会の主な役割として、1. 校長の作成する学校運営の基本方針を承認する、2. 学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べる、3. 教職員の任用に意見が述べられるということで、当初は3. についての危惧があり、志木市は学校評議員制度で運用してきましたが、全国的にも危惧は見られないということです。

尾崎教育長からは「学校が抱える複雑化・困難化した課題を解決し、子どもたちに生きる力を育むためには、学校運営に地域の市民の参画・協力が必要となっている。このため、地域の市民と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む地域と共にある学校づくり、コミュニティ・スクールの推進が求められている。

本市では、一つの中学校区で学校の自主的な意思を発露として、コミュニティ・スクール実現に向けて2017年度の学校運営協議会の設置等、準備が進められている。教育委員会としてはこの機運を生かすべく、規定の整備や啓発の方策など必要な支援をしっかり行い、学校現場からの意見・意欲を生かした形で実現を図っていきたい。」との答弁がありました。

私も宗岡二中、宗岡三小を訪問させて頂き、宗岡二中の校長からは、着任されてから学校区の宗岡三小・宗岡小の校長と毎月定例的に情報交換の場を持って、地域ぐるみでの教育活動を展開されていることを伺いました。

宗岡三小の校長からは、地域の方々が支えている学校であり、2代目、3代目の子どもたちも来ており、地域の繋がり、世代間のつながりが堅い地域と伺いました。

また、1998年頃から学校を基盤とした地域づくりとして、遊びの玉手箱をはじめ、地域の方々が参画する学校で育った子どもたちが子育て世代になり、自分たちもしていただいたからと学校に協力してい

ること。

国では学校を主体としたコミュニティ・スクール、地域を主体とした地域学校協働本部を想定し、主に小学校区でそれぞれが連携・協働した、学校・地域づくりをイメージしています。

今後は教育委員会の学校教育・生涯学習部門が一体となり、市長部局とも連携・協力していく必要があるでしょう。

尾崎教育長からは「学校では地域を愛する人をつかっていきたいと考えてきた。おやじの会は私が就任した時には3校しかなかったが、現在は小学校8校すべてにある。たゆまぬ地域の方々の学校を応援する気持ちが、今の状況をつくりだしてきたと思う。

今後は部局間を超えた、また、組織を超えた連携にも意を尽くしていきたい。」との答弁がありました。

2016年3月議会 一般質問より

■ 誰もが良いところを伸ばせる子どもたちへの支援

2016年度予算では民生費が46.5%に達する中、志木市は工夫して、子どもの貧困や生活困窮者の自立、また、特別支援教育など、それぞれのニーズに応じて必要なところに予算をつけていく配慮をされたと考えます。

(1) 学習支援の充実について



2015年度からいち早く市費を1/2投入して立ち上げた学習支援事業、2016年度はひとり親家庭についても取り組みたいということです。

村上健康福祉部長「本事業は、子どもの将来が、その生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を越えて連鎖することのないよう、環境整備と教育の機会均等を図るもので、本年1月現在、中学生15人、高校生4人の計19人が学習支援教室に参加している。生徒や保護者を交えた学習相談や進路相談等、きめ細かいサポートを行っている。

2016年度は国のひとり親家庭等生活向上事業

費補助金を活用し、対象人数を30人に増やして積極的に事業を推進していく。」

2つの課が協力し、市の財政負担を減らし、対象人数を増やす工夫を評価しました。

(2) 特別に支援が必要な子どもたちへのサポート体制について

通常学級に軽度発達障がいの子もたちは約6.5%程度在籍している現実の中、4月には障害者差別解消法が施行され、法の趣旨である障がいのある子どもたちへの「合理的配慮」がますます重要になってきます。

また、子どもの貧困は6人に1人とされており、就学援助の要保護・準要保護を合わせると志木市も全国平均と同様およそ16%です。

スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、特別支援学級介助員、通常学級における支援員の充実が予算にも提案されており、教育長に伺いました。

尾崎教育長「今後発達上の特性や家庭環境等に要因がある不安や悩みを抱えた子どもたちが増加していくことが想定されることから、特別支援学級介助員、教育支援員、相談員、スクールソーシャルワーカーの増員や市の関係機関との連携など、誰もが安心して学校生活を送ることができる教育環境の充実を進めていきたい。」

スクールソーシャルワーカーのお話も伺いましたが、何年間もかけて保護者がやっと心を開いて下さり、子どものための生活環境を整えることができたこと。息の長い取り組みの継続をお願いしました。

■ 学校教育について

(1) 小学校における少人数指導「しきステップアッププラン」について

2015年度から小学校4年生にステップアップ指導教員が配置されました。私も志木四小で担任とのチームティーチングの様子を拝見しましたが、さらにベテランの校長経験者等による学校教育推進員がしっかりとサポートしていました。

小1～3年生までの少人数学級編成事業(ハタ

ザクラブラン)では年間予算およそ 6,500 万円、ステップアッププランでは 2,900 万円程度です。

4年生になると学力差が顕著になってくるということで、例えば経済的な格差が子どもの人生を左右するということがあってはならないので、大変ありがたいことです。今後の検証について教育長に伺いました。

尾崎教育長「しきステップアップ教員については基礎学力の定着を目的に、小学校8校の4学年に各校1名配置している。

各小学校では、例えば算数の授業に於いてはチームティーチングの手法を取り入れた授業を展開したり、個人の苦手とする学習について個別指導を行ったりして、すべての子どもが学習内容を確実に身に付けられるよう、きめ細かな指導を行っている。この効果の一端については、2016年度の埼玉県学力・学習状況調査において、第5学年の結果から確認していきたい。

現在実施している少人数指導研究委員会で成果と課題を精査し、よりよい指導が行われるよう、制度の定着を目指していきたい。」とのことでした。

(2)教員の授業力・教育の質向上のための研修・研究について

研究については全ての小・中学校で行なわれています。志木中学校の「ICT機器を活用した授業の工夫」、志木二中の特別活動に関わる「望ましい人間関係を形成し、自主的・実践的な態度を育む教育の展開」の研究発表を拝見させて頂きました。

志木二中では3年間の道徳の研究を踏まえて、さらに特別活動の研究をされたということで、特別活動を通して人間関係を構築する力をつけていきたい。社会性をつけていきたいということです。

研修については、昨年11月17日にすべての学校を会場に市内一斉授業研修会が行われました。算数・数学(志木二小)では、4年生の習熟度別少人数指導で4つのクラスに分かれ、それぞれ活発に自分の考えを発表したり、意見の交流を深める姿が見られました。研修の評価をして次年度に向けていく考えを伺いました。

尾崎教育長からは「市内一斉授業研究会は、埼玉県一授業力のある教員としての教科指導力向上を目的として、全12校を会場に12教科・領域で開催した。

各教科の主任会が中心となって研究協議を進め、大学教授や他市の校長等の外部指導者による指導を仰ぎながら、専門的な指導力を磨くことができた。

さらにこの研究会は、小・中学校の教職員がお互いの理解を深める場ともなり、小中一貫教育を推進する上でも有意義な研究会であったと認識している。」との答弁がありました。

■ 地域包括ケアシステムの構築について

(1)在宅医療・介護連携の推進

(2)認知症施策の推進

(3)地域ケア会議の推進

(4)生活支援サービスの充実・強化



地域包括ケアシステムは、要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・生活支援・住まいの支援が一体的に受けられる仕組みです。この体制づくりを団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に構築することが求められています。

これに基づき、要支援については新しい介護予防・日常生活支援総合事業として、訪問看護・福祉用具の給付以外はホームヘルプサービス、デイサービスも組み替えて、2017年3月までに地域支援事業として市が担っていくことになり、事業のボリュームが飛躍的に増えていきます。

進捗状況と今後の方向性について、村上健康福祉部長からは「(1)在宅医療・介護連携の推進については、朝霞地区医師会等と連携して、医師や歯科医師、介護サービス事業者などの専門職間の顔の見える関係づくりを中心とした多職種連携研修会を開催した。

今後は、さらに医療職や各職種、市民等の代表からなる多職種連携代表者会議を3月に設置し、本市の医療資源や実情を踏まえ、市民等への理

解を図るための普及啓発事業や、医療職と介護専門職との実践的な連携方法の検討など、現状の課題抽出を踏まえ、対応策を具体的に検討していく。

(2)認知症施策の推進については、専門医や作業療法士、精神保健福祉士などで構成する認知症初期集中支援チームを編成し、3件のモデル事業として訪問を開始している。

2016年度からはそれらの成果を踏まえ、認知症と疑われる方やそのご家族のために、本格的に状態把握や受診勧奨等の支援を行っていく。

また、市役所長寿応援課及び市内5か所の高齢者あんしん相談センターに認知症支援推進員を配置し、相談窓口としての的確なワンストップでの支援体制づくりに努める。

認知症ケアとしての認知症カフェについても、各高齢者あんしん相談センターにおいて毎月開催し、併せて本年1月に作成した認知症ガイドブックを活用し、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいく。

(3)地域ケア会議の推進については、地域ケアエリア会議と地域ケア専門部会から上げられた地域課題の解決を検討するとともに、自立支援型のケアマネジメントに向けた取り組みとして、地域ケア

中央会議を今年度は2回開催した。

2016年度は地域ケア中央会議を6回程度予定している。参加機関や実施回数ともに充実強化を図り、地域包括ケアシステムの実現に向け推進していく。

(4)生活支援サービスの充実強化については総合事業への移行を視野に入れ、多様な主体間の情報共有及び連携協働による取り組みを推進するための協議体の設置に着手している。

今後は市内全域をカバーする生活支援コーディネーター(第1層)を配置するとともに、2016年度からは、きめ細かな生活支援サービス提供のため、市内5圏域ごとに各高齢者あんしん相談センターに生活支援コーディネーター(第2層)を配置していく。高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア団体等の資源開発を中心に関係者間のネットワーク構築を進め、新たな生活支援サービスの体制整備を本格的に進めていく。

2016年度は(1)～(4)の取り組みを着実に推進していくため、地域拠点である市内5か所の高齢者あんしん相談センターの人員配置を拡充し、体制整備と機能強化を図っていく。」との答弁がありました。



● 天田いづみの活動日誌(主なもの)

2015年11月26日～12月17日 議会定例会

- 12月2日 子どもにとってのネット・ゲームのホントの問題 北崎圭太さん(NPO法人あそび環境 Museum アフタフ・バーバン)
- 3日 介護予防講演会 岡持利直さん、いろは百歳体操紹介 ハイデンス・サロンくすのき・あったかの家の皆さん
- 4日 志木市成年後見支援センター 佐々木所長より成年後見制度について伺う
高齢者あんしん相談センター館・幸町 石幡所長より、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みについて伺う
- 5日 「親亡き後と老後の準備・地域であたりまえに暮らしていくために必要な支援」明星大学教授 吉川かおりさん(志木市手をつなぐ育成会)
- 7日 放課後学習教室(志木四小)視察
- 12日 第8回 スtringス志木定期演奏会
- 13日 「(県指定文化財)田子山富士塚の保存と修復」志木市と富士山 志木市文化財保護審議会委員・田子山富士保存会副会長 深瀬克さん(志木市郷土史研究会・志木のまち案内人の会)
ふれあいフェスタ(総合福祉センター・宗岡子育て支援センター・児童センター・宗岡地区学童保育クラブ・多機能型事業所・宗岡第二公民館)
- 15日 「改正道路交通法・自転車の安全な乗り方」朝霞警察署 志賀正行さん(東の森壱番街町会)
- 18日 アフターファイブ定例会(21しき市民会議5期)

- 2016年1月7日 教育サポートセンター スクールソーシャルワーカーより話を伺う
 10日 消防出初式 消防団退職団員感謝状贈呈式
 20日 5年総合的な学習の時間「柳瀬川の自然」学習発表会(志木四小)
 21日 公共施設マネジメント フォーラム第4回 公共施設マネジメントと公会計改革とのリンケージ 南学さん、松村俊英さん(東洋大学 PPP 研究センター)
 25日 放課後学習教室(宗岡小)視察
 26日 平成26・27・28年度 志木市教育委員会委嘱 ICT 研究発表会(志木中学校)
 29日 埼玉県特別機動援助隊(埼玉 SMART)合同訓練(朝霞の森にて)
 第41回太陽展(市内特別支援学級合同作品展)
 2月3日 公共施設マネジメントフォーラム第5回 「子育て支援」の視点から見た公共施設マネジメント 厚木市子ども未来部長 小瀬村寿美子さん、東洋大学客員教授 南学さん
 5日 議員懇談会(志木市教職員組合)
 6日 天田いづみのティータイム
 7日 志木の遺跡展～柏町地区の遺跡編～
 8日 立候補予定者説明会
 10日 TMG 宗岡中央病院、そよかぜ(病院職員のための保育室)視察
 ブックスタート視察…9か月児健診の親子に、読み聞かせの体験と絵本のプレゼント
 志木市立図書館協議会傍聴…志木市立図書館に求められる役割と今後の運営のあり方について
 12日 いろは市民大学作品展
 13日 東の森壱番街安否確認訓練、受水槽見学(東の森壱番街自主防災会)
 15～3月9日 議会定例会
 15日 新水道庁舎の見学会
 17日 平成27・28年度 志木市教育委員会委嘱 特別活動研究発表会(志木第二中学校)
 21日 「どんぐりの家」チャリティ上映会
 3月6日 第7回総合福祉センターまつり 沖縄踊り・和太鼓…宗岡小学校たんぼぼ学級・宗岡第四小学校4年生
 13日 賑わいのあるまちづくり～本町を知ろう～(本町地区まちづくり会議:本町通りにて)
 15日 志木二中卒業式
 23日 志木二小卒業式
 27日 街の未来を考えるシンポジウム & ワークショップ 東京都市大学環境学部教授 室田昌子さん(館地区まちづくり会議)
 さくらフェスティバル(志木市コミュニティ協議会)、村山快哉堂まつり
 30日 朝霞地区一部事務組合議会
 4月3日 市議会議員選挙告示
 3日～9日 市議会議員選挙運動
 10日 市議会議員選挙投票日
 11日 志木二小入学式
 当選証書授与
 14日 「老後を快適に暮らす会」第23回総会及び懇親会
 15日 アフターファイブ定例会(21しき市民会議5期)
 16日 宗岡公民館まつり
 17日 天田いづみの選挙反省会
 22日 公共施設マネジメントフォーラム第6回 「施設を持たない」行政運営、学校プールの共同利用と跡地利用の可能性 高浜市長 吉岡初浩さん、東洋大学客員教授 南学さん
 23日 子どもと本の幸せな出会いのために 東京子ども図書館理事長・翻訳者 張替恵子さん
 25日 志木四小視察 川崎校長と懇談
 26日 議会臨時会
 5月2日 志木四小もくせい会定期総会



- 8日 放射線像展 紬カフェ(ワーカーズコレクティブ紬)
- 11日 議員説明会…福祉センターの機能移転及び総合福祉センター内の再配置に関する基本方針案について、市庁舎及び市民会館建設事業手法等比較検討支援業務委託結果について
- 14日 志木市PTA 連合会総会及び懇親会
- 15日 第2回ノルディックウォーキング・ポールウォーキング全国大会
- 21日 志木二中体育祭、宗岡二中体育祭
- 22日 手習い半世紀展 志墨会 齋藤素翠さん
- 25日 志木市立図書館協議会傍聴
- 28日 志木二小運動会、志木三小運動会、宗岡小運動会
- 29日 第9回 スtringス志木定期演奏会

■ 志木二小脇の歩道 年度内に補修

志木二小体育館脇の歩道は雨が降ると水が溜まって歩けない箇所もあり、数年来補修を要望してきました。

今年度中に舗装補修工事が行なわれる予定ですが、この歩道はいきいきサロンの行き帰りに利用する方も多いため、安全への配慮をお願いしました。

■ 4年間 よろしく願いいたします

いつもは一人で配っている「天田いづみの議会だより」ですが、市議会議員選挙告示までの2週間は市民の方々が介護や子育て、お仕事の合間に手伝って下さり、無事配り終えることができました。

今回も選挙カーは使わず、普段の活動と同様に歩きと自転車で、辻々に立ち、街頭演説で地域毎の課題と政策をお話ししました。5期20年間、様々な課題に天田いづみとともに取り組んできた市民の方々が、入れ替わり立ち替わり一緒に回って下さいました。

一週間で日頃会えない方々に出会い、お話を伺うことができました。「夫がアルツハイマーで…」、「5年も認知症で…」、また、お元気な方でも、投票日を覚えていて投票所に足を運ぶことが大変になっていくんだなあと感じました。

街では女性だけではなく、高齢の男性の方々が多く声をかけて下さり、地域で年を重ねていくことに危機感を持っていらっしゃる、こうした方々が市政に関心を持たれるのはとても大事なことと思いました。

選挙を通して寄せられた、街の皆さまお一人ひと

りのおもいを、天田いづみはしっかりと受けとめさせていただきます、今後4年間活動していきます。

結果として2,489票(2位)をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。

議会では、従来通り一人会派(リベラル市民21)です。改選後、常任委員会が3委員会から2委員会となり、私は市民文教都市常任委員会の委員長になりました。

6月議会は新しく議員になられた若い方々の初めての定例会、私も大変緊張しましたが、委員会でもそれぞれ活発に発言され、希望を感じました。

また、3月27日に参加した「街の未来を考えるシンポジウム&ワークショップ」では、子育て世代の方々から「地域の中でもなかなか声が届かない」との率直なお話を聴くことができました。若い世代の声が反映されるまちづくりを目指していきます。

どうか皆様からも、率直なご意見をお寄せ下さい。4年間どうぞよろしく願いいたします。

ティータイム



2016年10月1日(土)
午後 2:00~4:00
柳瀬川図書館2階会議室

志木の中で身近に感じていることなどを

気軽にお話しませんか?

**** これまでの活動とその成果は!! ****
天田いづみのホームページでご覧下さい